

連携型専門ケア機能モデル事業の概要

事業概要

虐待に起因する愛着障害や発達の違いにより様々な問題行動を起こす等、重篤な症状を持つ児童の早期改善を図るため、都立石神井学園において、生活支援・医療・教育を一体的に提供する「連携型専門ケア機能」の試行を行う。

■ 事業目的

- 虐待による重篤な症状を持つ児童に対し、生活支援、医療（心理治療、精神療法）、教育（特別支援学級）を一体的に提供する「総合環境療法」により、安全・安心な生活環境のもとで、それぞれの児童に合わせて特別に配慮された生活と個別の支援・教育により、児童の問題行動の改善を図る。
- 思春期を迎える前までに早期のケア（愛着の再形成）を行うことで、問題行動の重篤化を防ぐ。

■ 経緯

平成20年8月 東京都児童福祉審議会の提言
 虐待等により特に重いケアニーズを抱える児童に対し、早期の段階から生活・治療・教育の連携による「治療的ケア」を提供できる新たな施設の整備を検討する必要がある。
 平成20年12月～23年3月：新たな治療的ケア施設の基本構想検討会（計9回）
 平成24年2月：東京の福祉保健の新展開2012
 平成27年4月：連携型専門ケア機能モデル事業「すてっぷ」開設 ※受入れ開始は平成27年10月

入所対象児童

■ 対象児童の状態像

- ・虐待による愛着障害のため、重篤な情緒・行動上の問題を抱え、児童養護施設等での対応が困難な児童
- ・特別支援教育が必要な児童
- ・本事業により改善が期待される児童

■ 対象児童の年齢、入所期間等

小学生の男女
 3か月～2年程度の入所期間（原籍施設への復帰を原則とする）

■ 実施規模

児童12人（6人×2ユニット）の小規模集団でモデル実施

職員体制

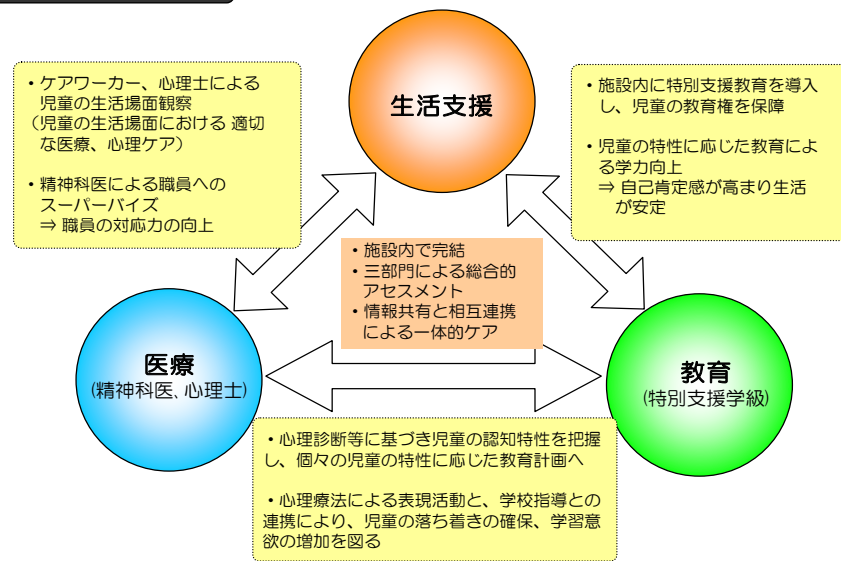
	男子寮 (児童6人)	女子寮 (児童6人)
ケアワーカー	4人	4人
心理士	2人	
ソーシャルワーカー	1人	
非常勤精神科医	1人(週2日)	
看護師	1人	

10人によるローテーション勤務
 (ケアワーカー8人、心理士2人)
 → 常時複数配置が可能となる人員

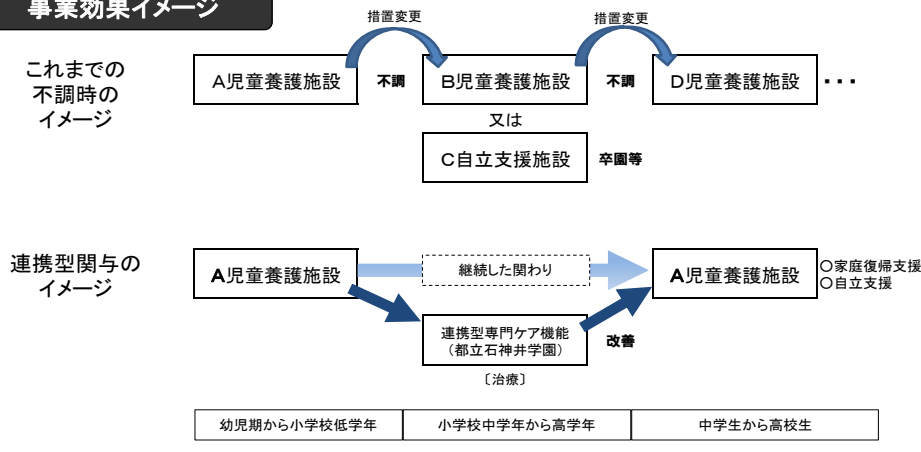
石神井学園一般寮
 児童16人(8人ユニット×2)に対し職員6人

学校教員	副校長1名、教員3名
------	------------

事業の実施イメージ



事業効果イメージ



事業実績（令和元年6月1日現在）

入所実績

性別	退所済	入所中	総計
男	7名	5名	12名
女	4名	2名	6名
総計	11名	7名	18名

入所時学年

学年	男	女	総計
小2	6名	1名	7名
小3	3名	3名	6名
小4	2名	1名	3名
小5	1名	1名	2名
総計	12名	6名	18名

退所児童の平均入所期

性別	入所期間
男子	約22か月
女子	約18か月
全体	約20か月

